Poster Presentation

Sat. Nov 1, 2025 1:00 PM - 1:50 PM JST | Sat. Nov 1, 2025 4:00 AM - 4:50 AM UTC | venue(Kanamori sangyo hall)
[P1] ポスター発表 #1

[P1-21] コンパクトシティ施策が都市構造にもたらす影響

*Mizuki Maki[1], Shohei Yasuda[2], Takeru Sugasawa[3] (1. Graduate School of Economics, Keio University, 2. College of Economics, Nihon University, 3. Housing Research and Advancement Foundation of Japan)
Keywords：コンパクトシティ、差の差分析（Difference in Differences design）

2011年以降、日本の人口は減少し続けており、減少率も年々大きくなっている。また、人口減少の加速に伴い、自治体の維持が困難になることが避けられない問題となり、消滅可能性都市に関する議論が活発化している。その中で、多くの自治体が様々な施策によって都市中心部に設定した区域への居住誘導を行うことで都市規模を縮小するコンパクトシティ化を推し進めている。特に富山県富山市については、政府が推進する以前から都市のコンパクト化を目指しており、OECDもコンパクトシティのモデル都市として挙げるなど、注目度の高い都市となっている。そこで、本論文では、施策の前後で①人口集約が進んだのか②地価が上昇したのかについて差の差分析を用いて明らかにした。分析結果から、人口は有意な上昇は見られないものの、施策を境に都市中心部における人口推移に変化が生じたことが明らかになった。また、地価は有意に上昇したことが明らかになった。

©一般社団法人地理情報システム学会